



山中だより

5月号

令和 8 年 4 月 30 日

品川区立山中小学校

校長 岩田 環

品川区大井3丁目7番19号

電話 03 (3772) 3006

観の目強く、見の目弱く

校長 岩田 環

若葉が目眩しい、新緑の季節を迎えました。先日の学校公開では、多くの保護者の皆様に御参観いただきありがとうございました。子どもたちは「計算ができるようになる」「誰にでも自分から挨拶をする」など、1年間の自分のめあてをしっかりと立てています。そして、苦手なものをなくそう、得意なものを伸ばそうとしています。学校では、その意欲を大切に、めあてに向かって努力し達成できるよう励ましていきます。御家庭でもぜひお子さんに声掛けをお願いします。

さて、4月のスポーツニュースに、今春デビューのメジャーリーガーのベルトに刺繍された文字に注目が集まっているという話を目にしました。高校時代の恩師から授かったと言われる座右の銘「臥薪嘗胆」。その言葉から、選手の人生観や野球にかける思いを感じ取ることができ、言葉は人に寄り添い、人を支え、行動を変える力となることを感じました。

宮本武蔵の五輪書に「観の目強く、見の目弱く…」という言葉があります。

観の目とは、心の目。全体を把握する視点。一方、見の目とは、目で追って物を見ること。普段私たちが見ている視点のことです。目の前の問題ばかりに気を取られては、物事は進まない。全体を見て、状況を把握しながらその時々に必要な手を繰り出していく。いま、このとき、この状況で、自分は何ができるのか。何を求められ、どうすべきなのか。「観の目強く、見の目弱く」して物事を見よ、きっと解決策が見えてくるはず。私も、教師になりたての頃、当時の校長より教わった言葉です。

これを子どもの見方に当てはめると、表面の姿にとらわれず、心の奥にある機微やよさを見抜く目をもてということです。

蝶はいきなり蝶になるわけではありません。さなぎという閉じこもりの時期もあります。長い目とプラス思考で子どもを見守り、その子らしさやよさを引き出すこと、成熟を待つことが何よりも大事だと思うのです。

子どもたちは様々な能力を秘めています。自分で限界を設けることなく、あきらめずに物事に挑戦する精神を高めたいものです。そのためにも、私たち周囲にいる大人が観の目を磨き、子どもたちに「生きる力」と「夢」を育てていきたいと思います。

◇ 5 月の生活目標 ◇

「友だちと助け合おう」

○係活動、当番活動を協力し合おう。 ○さそい合って進んで仕事をしよう。

○思いやりの気持ちをもって、助け合おう。



最新の情報は、学校配信メール、学校HP、品川区HP等でお知らせします。
定期的にご確認ください。